

東奔西走スクールライフADV

月は東に日は西に

—Operation Sanctuary—

オーガストオフィシャルハンドブック
2004-2005冬号

…
includes

オーガスト第五作

『夜明け前より瑠璃色な』

よあけまえより るりいろな

先行設定資料集

 **AUGUST**

こんにちは。オーガストです。

お待たせ致しました。

やっと、新作について皆様に発表できる運びとなり、スタッフ一同ほっとしております。そして同時に、これから加速していく開発へ向けて、気合を入れ直してもいます。何はともあれ、まずはこの新作の紹介ページをご覧いただき、そしてご期待頂ければ幸いです。

さて、一方では「オーガスト放送局 はにはにラジオ」ということで、結先生と恭子先生がパーソナリティのインターネットラジオが始まりました。

沢山の方に支えられて始めることができた企画ですが、お楽しみ頂けていたら何よりです。

(オーガストのオフィシャルHPからリンクしていますので、まだの方は、よろしければ是非!)

これからも色々新しいことにチャレンジして行きたいと思っておりますので、ご意見ご感想等ございましたら、アンケート葉書やオフィシャルサイトに是非ご一筆お願い致します。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2004～5年冬 オーガスト 拝

CONTENTS

- 3 はにはにショートシアター
『お年玉』
- 7 オーガスト第五作
『夜明け前より瑠璃色な』先行設定資料集
- 14 スタッフ対談
- 15 あとがき



お年玉

はにはにシヨートシフター

ココロキ

1月3日夕刻前。

一通りの正月行事を終え、家族は思い思いに時間を過ごしている。

茉理はデパートの福袋を買うとかで、勇んで出陣していった。明日から出勤の親父と英理さんは、お茶を飲みながら最後の休日をおんびりと過ごしている。

俺は、テレビの電源を落としてため息をついた。毎年のこととは言え、正月番組のラッシュには閉口する。

「ちょっと出かけてくるわ」

「あら、どちらへ？」
ソファで手芸雑誌を広げていた英理さんが表情を曇らせる。

「コンビニだけど、どうかした？」

「今日は天気が悪くなるみたいだから」

「ああ、すぐ帰ってくるから大丈夫」

そう言っ、俺はリビングのドアを開いた。

*

年始の住宅街を「世界タービン号」で疾

走する。

冷たい風が容赦なく吹きつけ、耳たぶがじんとな熱くなった。灰色の雲が空を覆っていたが、雨が降るまでにはまだ時間がかかりそうだ。

「あれ、久住くん？」

朗らかな声に呼び止められたのは、コンビニがある商店街に少し入った頃だった。

「お、美琴。今年もよろしくな」

「うん、こちらこそよろしくね」

べこりと頭を下げる美琴。やや薄着とも見える服装だったが、それがむしろ彼女の元気を際立たせていた。

「ところで、じーてんしや乗って、どここいくくの？」

美琴が謎の節回しで尋ねてくる。

「コンビニ」

「そっけなく答えないでよ。寂しいでしょ」

いきなりスネた。

「美琴はどこに？」

「ふっふ〜ん、よくぞ聞いてくれました。わたしはラーメン屋さんです。こう、熱いところをスズツとね」

と、落語風にソバを食べている真似をする。それが堂にいついていて、素直に食欲をそそられた。

「そりゃ、ソバ食うときの仕草だよ。で、どこのラーメン屋行くんだ？」

「えっとね、駅前新しくてきたトコ。良かったら一緒に行く？」

正月料理に飽きた舌に、ラーメンの濃厚

な味はかなり魅力的だ。

「行く」

即答。

「後ろ乗れよ。その方が早いだろう」

「ラッキー。じゃ、遠慮なく」

言うなり、美琴は後輪にまたがった。

ガクンと後輪タイヤが沈む。

「おー、タイヤがずいぶん沈むなあ」

「久住くん、失礼です。空気が抜けてたんだよね、ね？」

「多少な。さ、ちゃんと掴まってるよー」

右のペダルに力を込める。

「れっつこーっ」

にぎやかな発進に歩行者の視線が向けられたが、なぜか気にならなかった。

人通りの多い商店街を抜けてから、俺は口を開く。

「そう言えは美琴って」

「えっ、何？ 聞こえない」

美琴が頭を俺の肩に置く。

「美琴って、立ち乗りなの？」

「立ち乗り？ ああ、自転車の乗り方ね」

耳元にかかる息がくすぐったい。

「女の子乗りの方が良かった？ 保奈美みたいに」

ニヤリという笑いが見えそうな声だ。

「ちげーよ。たださ」

「ただ？」

「絶対パンツ見えてるぜ」

「うそっ！」

美琴の体が左右に動く。

「おわあっ、危ないっつの」
「そういうことは早く言っつてよ、久住くんのムツリ」

「今気がついたんだって」
「停めてっつてば、女の子乗りにするから」

美琴の手が俺の首にかかる。
「コケるコケる、危ね〜っつっ!」
住宅街に俺の絶叫が木霊した。

夕暮れが迫り、空気は冷たさと湿度を増していた。

荷台に乗った美琴は、大人しく俺の腰に腕を回している。

「でさ、ラーメン屋ってどこ?」
「駅のちよっと前を右に曲がってえ、2つ目の交差点を左だった……かな?」
「かな? じゃねーよ。大丈夫なんだろうな」

「あははははっ。ダイジョーブ」
明るい笑いが不安を掻き立てる。

案の定、道に迷った。

「見当たりませんか?」
「つかしいなあ。こっちだと思ったんだけど」

駅前と呼ばれる区域に入って既に十五分。俺たちは大通りをはずれ、見たこともない細い道をウロウロしていた。

「戻って地図持ってきた方が良くないか?」

「大丈夫、大丈夫。それに、運動した分ラーメンも美味しくなるって」

「ちゃんとありつければいいけどな」
「うふふ、美琴さんに任せておいてっ」
自信の根拠を訊きたくて仕方がなかった。

更に十五分後。

「困ってしまったってワンワンフーン!」
すっかり暗くなった空に詠嘆する俺。

「あはははっ、何の歌?」
「途方に暮れるしかない状況を嘆く歌」
「……スイマセン」

俺たちの頭上を、およそ飲食街のものは思えない派手なネオンが通り過ぎていく。

「いい加減、誰かに訊いてみるか」
「そうだねえ……あ、待って、あの道それっぽい。左、左」

美琴が指差す先は、ビルの間にある道幅2メートル程度の横道だ。

「あそこを抜けた先にありそう」
「っほい」とか「ありそう」とかいう表現が気になったが、いまさーら一、二回道を間違ったところで痛くも痒くもない。

「よし、体重移動よろしくっ」
「らじゃーっ」
減速もほどほどに、華麗なコーナリングを決める。

ゴガゴガゴガゴガゴガッ!
「きゃああああああっ!」
「オフロードー!」

曲がった先は砂利道だった。

転倒だけはしないようハンドルをしっかりと



月は東に日は西に

Operation Sanctuary

りと握り締める。

幸い砂利道は短く、すぐ舗装道路に出た。

「はあ……慣れない道の二人乗りは……さすがに怖いな」

「いやあ……途中で……落っこちるかと思っただよ」

道の両側に林立するビルの上階は大半が飲食店で、まばゆい光が暗いアスファルトを照らしている。

「見つけたーっ！ あのお店、えっと（らあめん四郎）」

十メートル程先に開店祝いの花輪が飾られている店舗があった。明るい店内は満員らしく、入り口のドア越しに客の背中が見える。

「久住くん、早く行こうよ。おなかペコペコだよ」

「だな」

自転車を道路脇に止め、チェーンロックを締める。

と同時に、「らあめん四郎」から店員らしき男が現れ、入口に看板をぶら下げた。

「スープ切れにつき
本日の営業を終了させていただきます」

立ち尽くしたまま息をすることも忘れる俺たち。

真新しいのれんが寒風に弄ばれ、バタバタと音を立てていた。

*

街は夜の帳に包まれていた。月は厚い雲に隠され、その所在さえ分からない。

冷え切ったアスファルトの上を、俺たちはトボトボと歩いてきた。自転車で乗る体力がなかったからではない。

後輪が見事にパンクしていたのだ。原因はおそらく、砂利道を二人乗りで走ったことだ。

「ごめんね、久住くん。わたしがちゃんと場所を覚えておかなかったから……」

「あんま気にするなよ。俺も気にしてないし」

「……でもさ」

「いいの。もう言うなよ」

「う、うん……」

店を出てからの俺たちは、ずっとこんな調子だ。

元気印の美琴だけに、凹んだときの落差は大きく、こちらまで悲しい気分になってくる。心なしか、頭のリボンもへこたれて見えた。

「自転車屋さんってもうすぐ？」

「ああ。コイツを買った店だから、パンクくらいすぐに直してくれるさ」

パンクした後輪がガタガタと周期的に音を立てる。それが美琴を責めているように聞こえて、腹立たしかった。

「あの、修理代、わたしが……」

「美琴、そういう話にするなよ。シャキツとしろ」

「ふえ、ごめんなさい」

へこたれた表情のまま、美琴が気をつけをする。

「しょーがねーな……」

ふと、強いダシの香りが鼻腔をくすぐった。

視線を上げると、しなびた立ち喰いのソバ屋が目に入る。のれんの隙間からは、湯気とソバをすする音が漏れ、冷え切った体にはそこが別天地のように見えた。

「久住くん。どうしたの？」

俺の足は完全に止まっていた。

「美琴、ソバ食ってこようぜ」

「え、立ち食い？」

「ことうときは、立ち食いの方が温まるんだよ。ホラ」

適当な理屈をつけて、美琴をのれんの中に引っ張り込む。

「男の〜海はよ〜♪」

「いらっしやい」

テレビからの演歌と辛気臭い親父の声とが出迎えてくれた。

「天ぷらそば2つ」

「あいつ」

親父がチャッチャとソバの湯を切り始める。

「わたし、ことうところ初めて」

「美味いぜ」

耳打ちしてきた美琴にニヤリと答える。

「はい、天ソバ」

早くも厨房からどんぶりが2つ突き出された。勢い余ってツユが少しこぼれる。

「さ、食おうぜ」

俺は割り箸を美琴に渡すと、ソバに覆い

かぶさった。

すずっ

すーっ

会話のない店内にソバをすすする音が響く。

「温まるだろ？」

「うん、うん……」

うつむいたまま頷く美琴には、まだ元気がない。

「よし、奮発だ。すいません、こっちに玉

子一つ」

「へい」

カウンターに五十円玉を置くと、美琴のどんぶりに玉子が落とされた。

美琴は、黄色く盛り上がった卵黄をきょとんとした表情で見ている。

「いいの？」

「ああ、オトシ玉ってヤツだ。元気出せよ」

「……シベリア級だよ、そのギャグ」

しばしの硬直の後、美琴が苦笑する。

「ま、俺にかかりゃこんなんもんさ」

「でも、寒いほうがおソバが美味しいから、許してあげる」

そう言った美琴の顔には、多少明るさが戻っていた。

*

店の外は相変わらずの寒さだったが、風はピタリと止まっている。

「いやー、あつたまったね」

「ああ、これなら家まで無事帰れそうだ」

「久住くん、息が真っ白」

ちよっとダシ臭い俺たちの息は、白く絡み合いながらゆつくりと上っていく。

少しの間、夜空に消える息を見てみると、彼方から更に白いものが落ちてきた。

「雪だよ、雪っ」

「ああ」

「すごい……うわっ、冷たっ」

すぐに消えてしまう、淡い雪だった。

だが美琴は、それこそ犬のように喜んで

いる。「タルキスタンじゃ雪降らなかったのか？」

俺の言葉に美琴は動きを止め、

「降ったけど、今日みたいに楽しい雪はあんまり降らなかったよ」

かすかに憂いを含んだ笑顔で答えた。

「わけわからんが、楽しいなら何よりだ」

「そ。何より何より」

美琴の顔から影が消えたのを確認して、

俺は再び自転車のハンドルを握る。

「今度は、ちゃんとフレーム屋に行こうな」

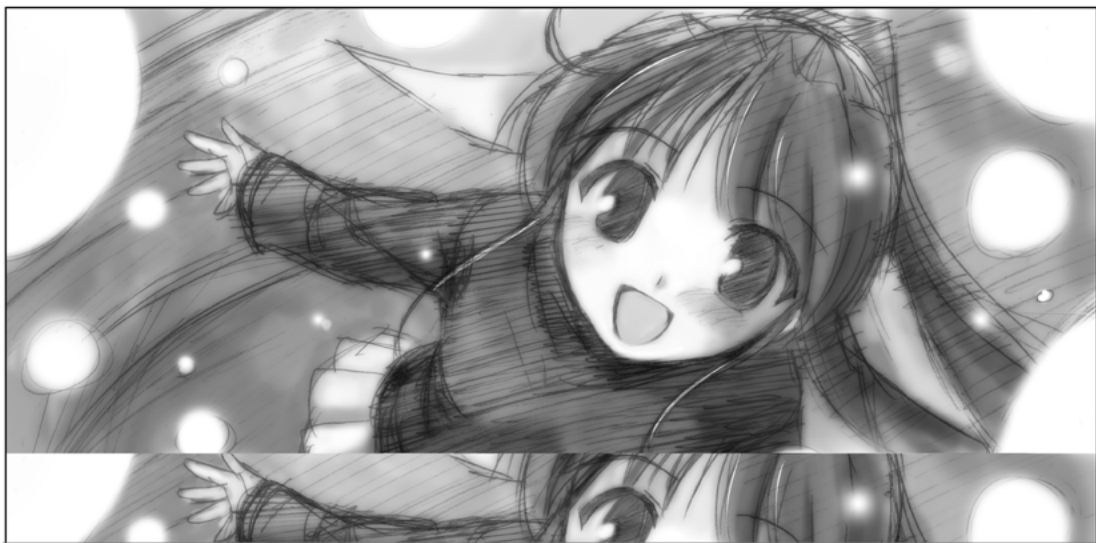
「今度っていつ？」

「ああ？ んじゃ、明日」

「うん、うんっ」

美琴は何度も頷くと、朗らかな表情で再び空を見上げた。

終



あなたと一緒になら、
きっと大丈夫。



オーガスト第五作

『夜明け前より瑠璃色な』

よあけまえより るりいろな

2005年発売予定

For Windows98SE/Me/2000/XP

シナリオ・榊原拓 ほか / 原画・べっかんこう



フィーナ姫

フィーナ・ファム・アーシュライト

「私には、あなたがいるわ」

主人公宅にホームステイする月のお姫様。仕草一つをとっても気品が感じられ、育ちの良さが窺える。責任感が強く、一度引き受けたことは投げ出さない。地球の空と雲がお気に入りで、主人公を見晴らしの良い場所に連れ出すこともしばしば。桃とシュークリームが好物。



◆【フィーナのプロフィール】

誕生日: 9月29日(てんびん座) / 血液型: B型
身長: 162.3cm / スリーサイズ: 84 (C) ・56・85
職業: 月のお姫様 (主人公の学園に留学してくる)
特技: 学問・礼儀作法・護身術。
苦手: 家事全般 (自分でやったことがほとんどないので。)
好きなもの: 桃、シュークリーム
嫌いなもの: 生の魚料理 (周囲には秘密)

◆【オーガスタスタッフより】

職責を全うすべく、日々努力しているお姫様です。地球に来た当初は緊張気味の彼女ですが、慣れてくるにしたがって女の子らしさが見えてきます。どうやら、主人公とは初対面ではないようですが……。

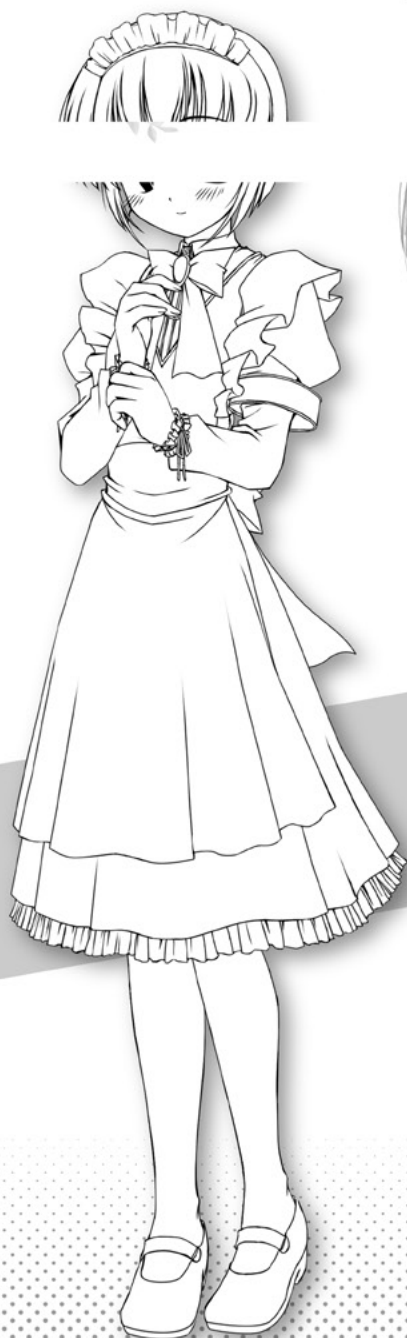


ミア

ミア・クレメンティス

「よくお似合いです、姫さま」

フィーナの乳母の娘で、メイドとして仕えている。フィーナのことをとても尊敬しており、今回の姫の留学にも、ただ一人身の回りを世話する役として同行することになった。自分から何かをしたい・欲しいと言うことはあまり無いが、責任ある仕事を任されると張り切る。



「よくお似合いです、姫さま」



◆【ミアのプロフィール】

誕生日：12月22日（やぎ座）／血液型：A型
身長：148.1cm / スリーサイズ：72（A）・52・77
職業：フィーナに仕えるメイド
特技：家事全般。ジャム作り。手先がとても器用。
苦手：人が大勢いるところ。率先する役を任されること。
好きなもの：ヨーグルト（自家製ジャムをつけて食べる）
嫌いなもの：マーマレードは少し苦いので苦手。

◆【オーガストスタッフより】

小っちゃくてかわいいメイドさんです。今までは設定に合わなかったり様々な事情で登場できなかったメイド。今回やっと、フィーナ姫の身の回りを世話する役として登場です。黒髪おかつぱです。ぜひ撫でてあげて下さい。

朝霧 麻衣

あさぎり まい

「お兄ちゃんって呼ぶの、もう恥ずかしいよ」

主人公の妹。実は養子で主人公と血は繋がっていない。しかし、両親が亡くなった今、このことを知るの二人だけであり「他人には絶対に秘密にしよう」と誓い合っている。学院では吹奏楽部に所属し、フルートを演奏している。主人公はよく自主練につき合わされる。



【麻衣のプロフィール】

誕生日:8月3日(しし座) / 血液型:A型
身長:153.7cm / スリーサイズ:78(B)・54・79
職業:満弦ヶ崎大学附属カテリナ学院2年
特技:フルート演奏。家事全般。
苦手:最近、「お兄ちゃん」と呼ぶのが少し恥ずかしい
好きなもの:アイスクリーム
嫌いなもの:レバー・ホルモン系

【オーガストスタッフより】

周囲の全ての人に対して、実は麻衣が養子であるということを秘密にしている状態でゲームが始まります。もちろん、二人はこのまま兄妹として生きていこうと考えていますが……どうなっていくのかはお楽しみに。

鷹見沢 菜月

たかみざわ・なつき

「窓からは進入禁止って言ったでしょ？」

主人公の幼なじみ兼クラスメート。隣にあるイタリア料理店の一人娘で、ウェイトレスとしてお店を切り盛りしている。喜怒哀楽がはっきりしており、困っている人は放っておけない性格。恥ずかしい目に遭うと「ぼんっ」という音がするほど真っ赤になる。



◆【菜月のプロフィール】

誕生日：5月23日（ふたご座）／血液型：AB型
身長：163.8cm / スリーサイズ：88（D）・59・86
職業：満洲ヶ崎大学附属カテリナ学院3年
特技：動物の世話。ウェイトレス業務。
苦手：騙されやすい。何となく運が悪い。
好きなもの：野菜ジュース
嫌いなもの：油っこいもの（こっそりダイエット中）

◆【オーガストスタッフより】

世話焼きの幼なじみです。女の子らしく振舞いたいのにも、いつもにぎやかになってしまうのが悩みの種。周囲の世話を焼くのに一生懸命で、気疲れしてしまうことも。彼女の部屋へは2階のベランダをまたいで入れます。

穂積 さやか

ほづみ・さやか

「二人きりの時くらい、甘えていいんですよ」

主人公の従姉。主人公の両親が他界後、残された兄妹の面倒を見てくれている一家の大黒柱。月への留学経験がある数少ない地球人で、月の文化を地球に紹介する「王立月博物館」の館長代理として働いている。エリートだが、とてもそうは見えないほんわかした性格。

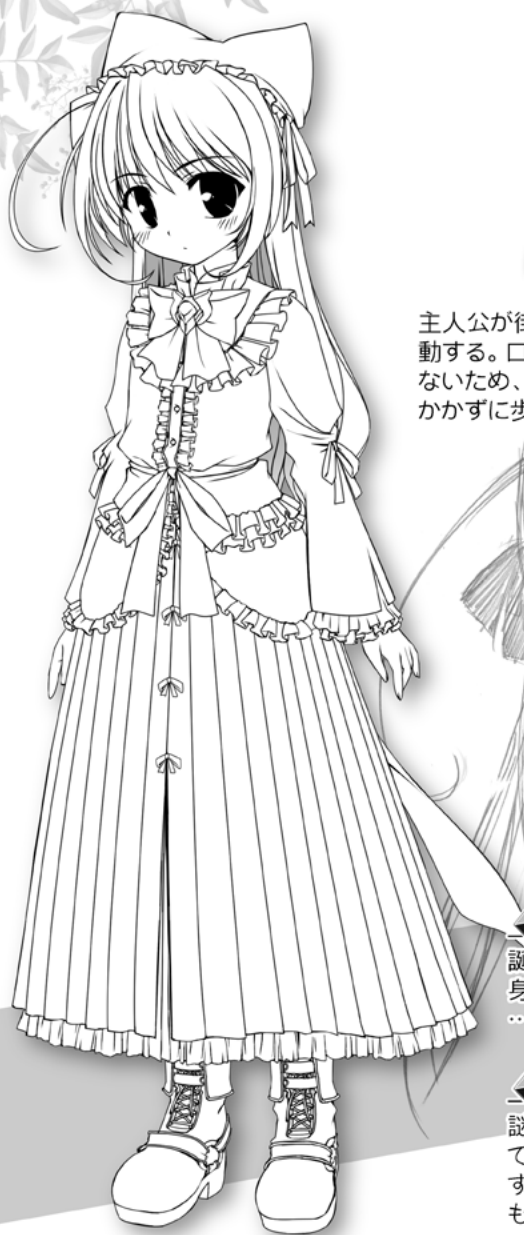


◆【さやかのプロフィール】

誕生日：3月6日（うお座）／血液型：O型
身長：165.0cm / スリーサイズ：86（C）・58・86
職業：王立月博物館館長代理
特技：仕事がデキる。誰ともすぐに仲良くなれる。
苦手：周囲の恋愛には目ざといが自分が絡むと鈍感に。
好きなもの：フライドポテト系スナック
嫌いなもの：炒めものやサラダの中のフルーツ

◆【オーガストスタッフより】

普段、家の中ではほんわかしていますが、仕事をしている時はビシッと決まっているお姉さんです。主人公はよく頭を撫でられたりして「子供扱いするな」と反発したり。でも、甘えてみたら、ちゃんと甘えさせてくれそうです。



リース

リースリット・フェル

「どうしてついて来るの？」

主人公が街で見かける女の子。周囲にあまり関心を示さず、淡々と行動する。口数が少ないが発言内容は鋭い。自分のことはほとんど話さないため、住居や家族構成は謎。いつも厚着で、炎天下でも汗一つかかずに歩いている。

◆【リースのプロフィール】

誕生日：4月19日（おひつじ座）／血液型：B型
身長：139.2cm / スリーサイズ：63（AA）・49・77
……その他のプロフィールは今のところ不明。

◆【オーガストスタッフより】

謎の女の子です。話しかけても、ぶっきらぼうな言葉しか返ってきません。でも、心の奥には女の子らしい部分が眠っています。根気強く付き合っていけば、新しい一面を見せてくれるかもしれません。

F R O M A U G U S T

長らくお待たせ致しました。オーガスト第5作『夜明け前より瑠璃色な』を発表できるところまで、やっとたどり着きました。さて今回の企画作業では、今年の8月に発売した『オーガストファンBOX』と、ずっと並行して話を考えていたのが特徴と言えます。実際には、予定していたよりもかなり多くの時間をファンBOXの制作に注ぎ込んだことにより、企画を形にまとめる実作業がずいぶん遅れました。しか

しその間も、少しずつ、じっくりと新作の話は練られていき、遂に先行発表の日を迎えました。よく「ヒロインたちは娘のようなものだ」という例え話をしますが、今日はまだ、お見合い写真をちらっとご覧頂いたくらしいものです。そしてこれから制作が進むにつれて、もっと「生の」彼女たちを見て頂けるようになるでしょう。私たちも鋭意開発に努めて参りますので、ご期待いただければ幸いです。



べっかんこう(以下べ):こんばんは。べっかんこうです。

榊原拓(以下榊):こんばんは。榊原です。さて、ついに新作も発表となりました。

べ:やつとここまで来ましたねー。

榊:では早速ですが、ここに注目してほしいとが、ここがイテ押し、みたいなところはありますか?

べ:黒髪おかつばのちつちいメイドさんです。

榊:ミアですね。しかし即答ですか(笑)

べ:ついに、ゲーム本編でメイドさんを描けると思うと、夜も眠れないほど嬉しいんですよ(笑)

榊:メガミマガジンクリエイターズの表紙でも、メイドさんを描いてましたよね。

べ:実はメイドスキーマなもので。

榊:それは多くの人をご存知かと(笑)。シナリオ陣も頑張らないといけませんね。……じゃあ他には?

べ:何はともあれ「姫」です。フィーナ。今回は気品溢れる感じで行こうかと。

榊:プリホリのレティは庶民的でしたからね(笑)

べ:今度のフィーナは、ピシッと高貴なオーラを漂わせたところですよ。

榊:もちろん、こちらもそのつもりで進めてます。高貴なオーラが、自然に身につけている感じにしたいところ。

べ:……しかし、今回もまた長いタイトルですね。『夜明け前より瑠璃色な』。

榊:『月は東に日は西に』から『はににに』を思いついたように、何か略称は思いつきませんか?

べ:今回は何も考えられませんでした。

榊:そりゃ残念。あれはびっくりするくらい定着してくれましたよね。元は、この対談でしか言ってないのに。

べ:でも、ああいうのは狙って考えられるものじゃなくて、こう……なんて言うか「降りて来る」ものじゃないですか。

榊:そうそう。何時間考えても出てこなかったり、すんなりと出てきたり。個人的には、風呂に入って髪を洗ってる時とか、眠りに落ちる直前が多いです。

べ:それは、「いいアイディアを思いついたはずなのに、メモしてない」って言うための伏線ですか(笑)

榊:何を仰いますやら(笑) ちなみに、枕元にはちゃんとメモ帳を置いています。

べ:おお、偉い。僕の場合、アイディアがよく出てくるのは……

榊:ビールを飲んでるときってのはお約束過ぎですよ。

べ:そんなはず無いじゃないですか(笑) 第一それじゃ、仕事しながらでは全然アイディアが出ない人みたいですよー

榊:ムキになって否定するところが怪しいべっかんこう先生でしたー(笑)

スワップ対談 第9回 べっかんこう & 榊原拓



2004.12.15 AM00:20 社内にて

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

これからどんどん、制作も本番に入っていきます。

原画を描き、CGを塗り、テキストを書き。作品内容の更なるクオリティアップをはじめ、ゲーム制作チームとしてまた一つ殻を破れるような、そんな作品にしていきたいと思っています。

さて。最近の悩みどころは、新作の制作と、これまでにオーガストから発売したソフトのフォローと、どっちにも手を抜けないということです。

もちろん私たちが世に送り出した作品、そしてそのキャラクター達が長い間ご支持されているというのは、制作者冥利に尽きます。とても嬉しいですし、ありがたいことだと心から思っています。なので、色々和他社様からお話を頂いた際には、私たちがなるべく良いものと考え、お手伝いさせて頂いています。「ああ、またこのキャラクターに出番を作ってあげられるんだなあ」と喜びながら。すると、当然ですが今度は新作の制作スケジ

ュールに影響が出てくるのを避けられません。

数年前からオーガストのことをご存知の方はお気づきかと思いますが、『バイナリィ・ポット』→『Princess Holiday』→『月は東に日は西に』と、徐々に発売の間隔が広がってきています。どちらも疎かにすることができないからこそ、悩みどころなんですよ。

……そんなこんなで、ファンBOX制作と同時に企画を始めた新作も、やっと第一報の発表まで来ました。今後は制作ペースも上がっていく予定ですので、ご期待頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。

今後とも、オーガストをよろしく願い致します。

2004年12月29日 オーガストスタッフ一同

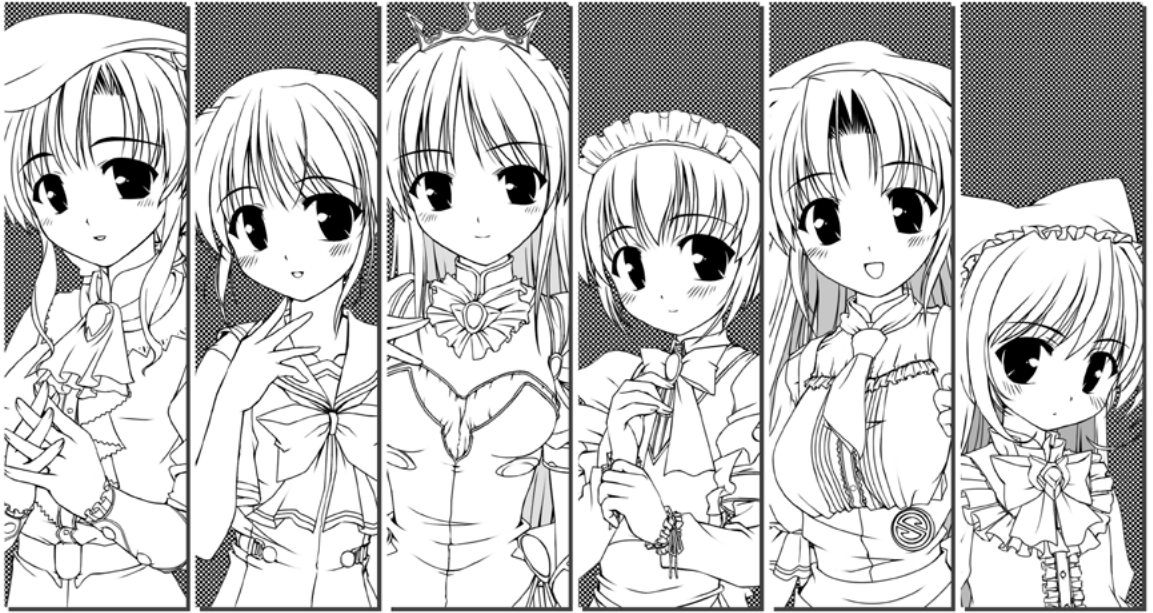


オーガストオフィシャルハンドブック 2004-2005冬号

オフィシャル情報満載!
オーガストオフィシャルホームページに
ぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>

※禁無断転載・無断複製



Y O A K E M A E Y O R I R U R I I R O N A

オーガストオフィシャルハンドブック
2004-2005冬号



Copyright 2004-2005 AUGUST All Rights Reserved.